

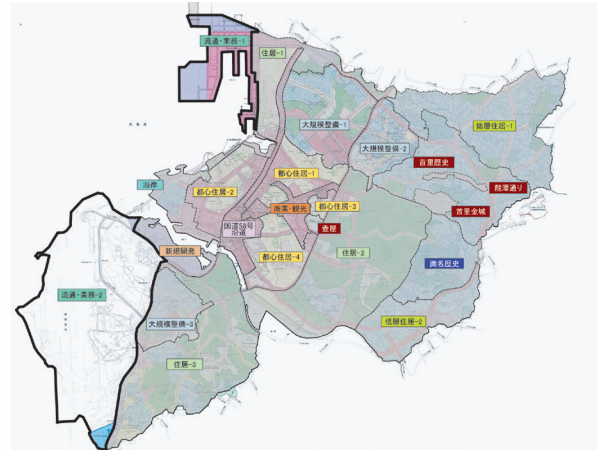
8. 流通・業務エリア

■エリア区分

流通・業務エリア 1＝新港ふ頭一帯

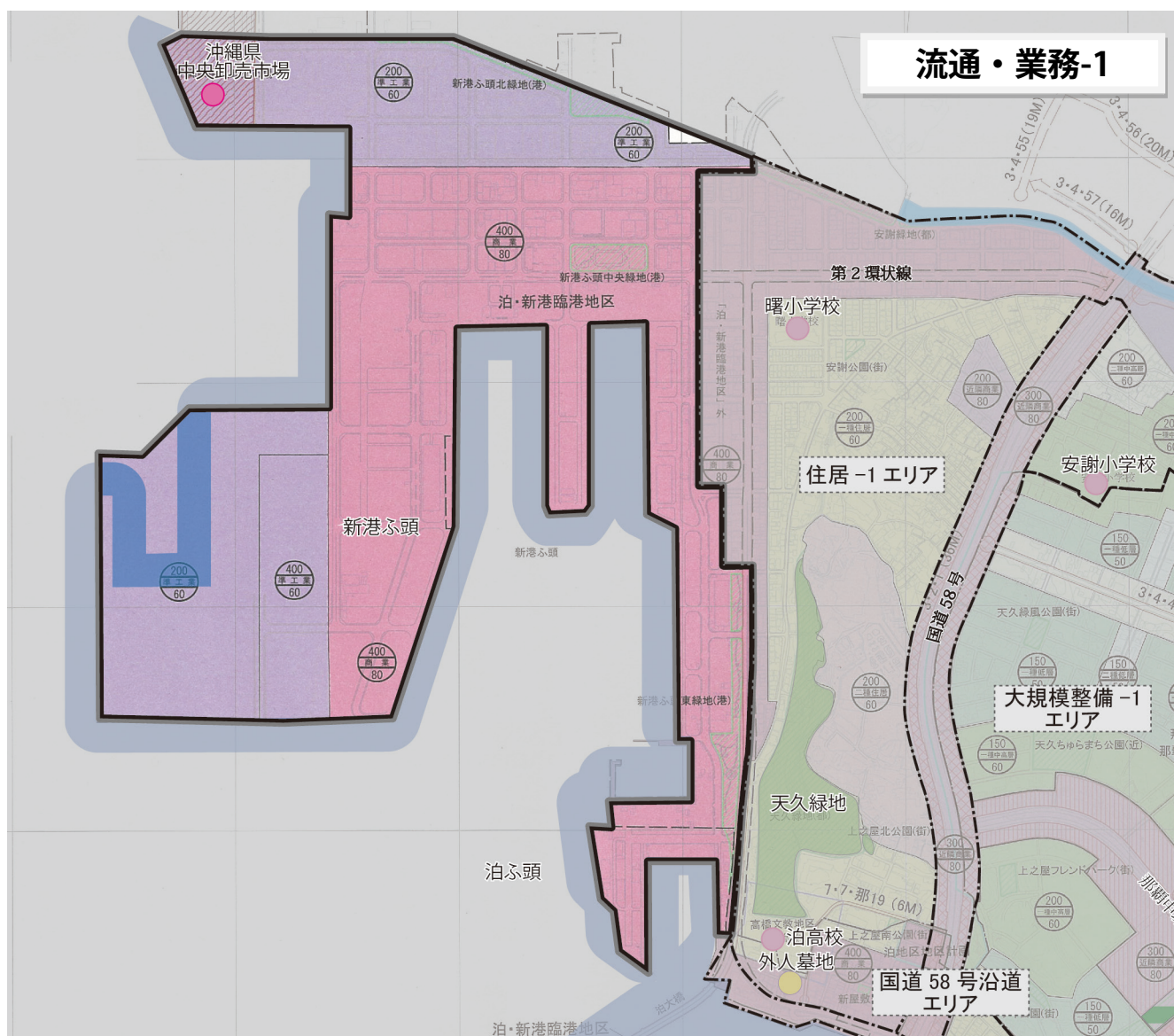
流通・業務エリア 2＝那覇空港・自衛隊基地一帯

新港ふ頭や那覇空港一帯は沖縄の玄関口であり、大規模な流通業務の景観を展開しています。これらをひとつのエリアとして区分します。

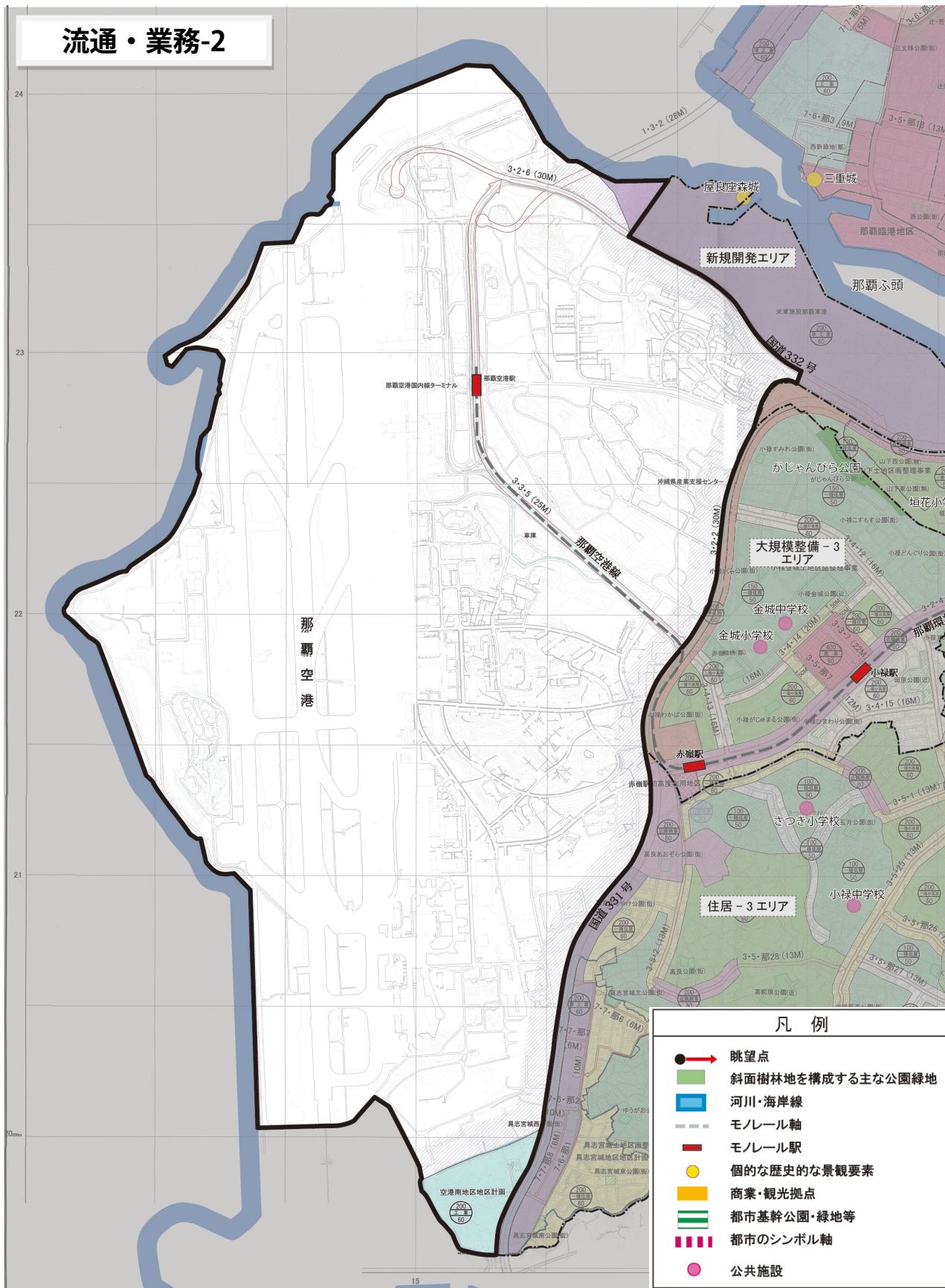


■骨格的景観要素図における位置図





流通・業務-2



＜景観整備の目標＞

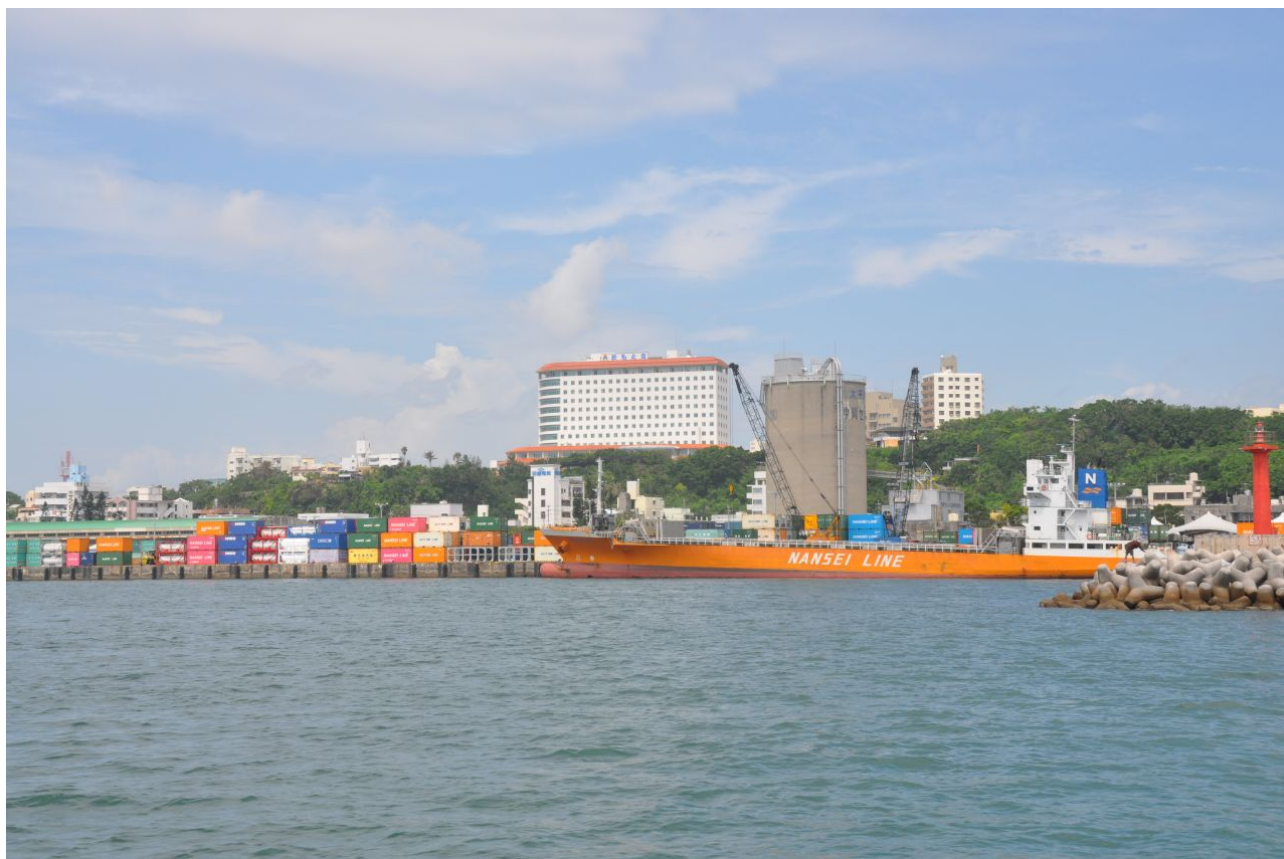
- ・沖縄の玄関口にふさわしい景観形成を目指します。

＜全体方針＞

- ①海・空からも見えやすい当流通・業務エリアは、それらの視点にも配慮したウォーターフロント景観の形成に努めます。
- ②周辺街並み景観と一体的に亜熱帯の海や緑の豊かさを感じさせる沖縄全体のゲートとなる景観の形成を図ります。
- ③巨大施設等は、周辺の景観と調和し圧迫感を与えないよう位置や形態を配慮します。

＜個別方針＞

- ①緑地や街路などでは、潮風などの環境圧に馴染む樹種の選択等によって臨海らしい緑景観の形成を図ります。（流通・業務エリア1 流通・業務エリア2）
- ②自衛隊基地については、境界部の緑化・修景を図ります。また、モノレール車窓からの眺望に配慮した景観の形成に努めます。（流通・業務エリア2）



那覇新港海上より天久緑地付近を望む



新港ふ頭・ガントリークレーンのある岸壁



那覇新港海上より港町付近を望む



那覇空港の立体駐車場



那覇空港の滑走路

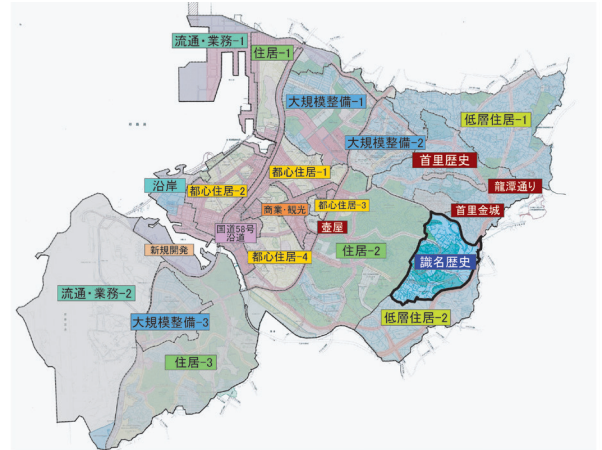


那覇空港駅より那覇空港国内線旅客ターミナルビル及び那覇空港統合庁舎を望む

9. 識名歴史エリア

■エリア区分

低層の住宅地域にあり、識名園は世界遺産に登録され、一帯には歴史の道などを含め歴史的伝統的な資源が残されています。また、世界遺産の緩衝地帯にふさわしい景観整備が求められています。したがって歴史的な遺産の保全等を行うエリアとして区分します。



■骨格的景観要素図における位置図



＜景観整備の目標＞

- ・ 識名園周辺一帯の文化財や歴史的遺産が有する景観の修復・修景・活用を目指します。
- ・ 旧集落の伝統的な景観資源の保全・修復・活用を目指します。

＜全体方針＞

- ① 識名園周辺一帯は、世界遺産の緩衝地帯として、歴史的・文化的遺産の保全・修景・活用を図ります。
- ② 地域の個性を活かした歴史・文化にふさわしい住宅地景観の形成を図ります。

＜個別方針＞

- ① 上間や識名の集落は、樋川や御嶽の杜、歴史の道などの歴史的・伝統的資源、地域資源の保全・修景・活用整備を図り、あわせて沖縄の住宅地らしさを有する景観形成を図ります。



ヒンプンのある住宅（上間）



上間ガー



②識名園は、内部の庭から識名御殿を望んだ場合、その背景に突出する建築物や工作物等（鉄塔など）が設けられないよう誘導・規制を図ります。あわせて「勸耕台」の有する景観をいかすよう配慮します。

※「勸耕台」の有する景観をいかす＝勸耕台（かんこうだい）とは、識名園内にある沖縄本島南部地域を見渡すことのできる展望所で、海が全く見えない大陸的な景色を見ることが出来ます。中国からきた冊封使をここへ案内し、琉球が決して 小さな国土ではないことを訴えたと思われます（園内表示板参考）。その景観をいかすこと。



勸耕台からの眺望

【イメージモンタージュ】



【現状】



識名御殿を望んだ場合、その背景に突出する建築物や工作物等（鉄塔など）が設けられないよう配慮します。